

工藤慎太郎 編著

運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略

町田志樹（臨床福祉専門学校・理学療法学）

本書は、工藤慎太郎先生（森ノ宮医療大）が手がける『なぜ？』シリーズの第3作である。同シリーズはこれまで『運動療法の「なぜ？」がわかる臨床解剖学』（医学書院、2012）、『運動器疾患の「なぜ？」がわかる超音波解剖』（医学書院、2014）、と医療の原点となる解剖学を中心に展開されており、いずれも“臨床に活かすための実践的な解剖学”をテーマとして構築された良著である。そして本作では、理学療法士であれば誰もが苦心する“評価戦略”が主題となっている。

臨床における評価の重要性に対して、異論を唱える理学療法士はいないだろう。また、その修得に苦心した経験は卒前・卒後を問わず、誰もが有すると思う。その苦心の背景にはさまざまな要因が挙げられるが、解剖学・運動学の正しいエビデンスと検査測定結果とをつなぐことに難渋するが多い。本書は学生・現職者の誰もが抱える、そのニーズに応える一冊に仕上がっている。

本書の特徴は、以下の2点に集約される。

まず1点目は、本書の構成にある。本書は運動器の各部位ごとに章立てされており、さらに各章が「力学的ストレスの明確化」「解剖学的評価」「運動学的評価」の3ステップで構成されている。段階を踏んで一考察を行うことによって、評価戦略の過程が

整理され、読者の理解をより深める構成となっている。

そして2点目は、評価戦略を裏付ける膨大な量のエビデンスである。本書には随所に国内外の解剖学・運動学のエビデンスが組み込まれ、その記述の信頼性を一層高めている。これまで解剖学・運動学の数多くの研究に携わってきた工藤先生でなければ、ここまで信頼性の高い記述はできないと、個人的には思う。

平日は臨床に臨み、週末には講習会へと足を運ぶ理学療法士の姿をよく目にする。自らの余暇と身銭を削り、日々の臨床のために自己研さんを積む姿には崇高さすら感じる。しかしその反面、近年では根拠の定かではない講習会も乱立しており、そのような講習会へ向かう理学療法士の姿を見ると、教育者として胸の痛くなる思いがする。

やみくもに講習会に向かう前に、ぜひ本書を手にとってほしい。本書には講習会数回分にも勝る、素晴らしい知見が随所に散りばめられている。特に若い先生方には、本書のような秀逸な著書から実践的な臨床力を学び取る力を身につけていただきたい。そのための最良の一冊になりうると、強く確信する。（B5 頁360 2017年 定価：本体5,200円＋税[ISBN978-4-260-03046-5] 医学書院刊）